

就労支援員・就労準備支援事業従事者養成研修

コロナ禍での就労支援

大田区 生活再建・就労サポートセンターJOBOTA
(社会福祉法人やまて福社会) 佐藤 正浩

大田区 生活再建・就労サポートセンター JOBOTA（ジョボタ）

■JOB+OTAの造語です。

・事業主体 - 大田区

大田区は東京都の南東部に位置し、人口約72万人。
羽田空港が立地する東京の玄関口。
臨海部の物流拠点や、機械・金属加工等の町工場が集積する工業地、にぎやかな商業地や、住宅地など多様性をもつ「東京の縮図」。



運営——駅近の民間ビル 月～土曜日開所

- ◇運営：社会福祉法人やまて福祉会が受託・運営
- ◇名称：大田区 生活再建・就労サポートセンター JOBOTA（ジョボタ）
- ◇場所：JR大森駅前徒歩2分 民間ビル6階
- ◇開所：月曜日から土曜日（祝日除く）10:00～18:00。
- ◇事業：自立相談支援、家計改善支援、就労準備支援を一体実施
無料職業紹介所（無料職業紹介所許可番号 13-ム-300091）
- ◇体制：21人（所長、主任相談員、相談員、就労支援員・就労開拓員、家計改善支援員、就労準備支援員、事務員、顧問）
- ◇資格：社会福祉士、精神保健福祉士、社会保険労務士、ファイナンシャル・プランナー、キャリア・コンサルタント、介護福祉士など

JOBOTAの就労支援の概況

■支援実績

	元年度
新規相談受付件数	1,558人
就労支援プラン件数	278件
就労者数	177人



2年度
<ul style="list-style-type: none">・ 4月、5月は新規相談数が1,000件を超えた。ほぼ住居確保給付金相談。・ 独自の求人開拓 ～活動縮小したが、企業開拓経験者を増員。協力企業の拡充。・ 支援調整会議でハローワークと協議 7月再開（月2回）・ 企業や就労継続支援事業所への面接同行は承諾あれば実施継続 ※アウトリーチを重視してきた

コロナ禍での就労相談の状況

◆コロナ禍での影響

- ・ 空港関連産業、観光産業、飲食・サービス業等が長期休業
- ・ 多くの企業が募集中断、採用延期。求人開拓員の企業訪問は自粛
- ・ **若者の派遣就労等、不安定雇用による相談急増**
- ・ 当面を住居確保給付金や、給付・貸付制度の案内で対処
- ・ 単発のバイトや、感染防止対策を講じ営業再開の報告も収入上がらず。

◆即応可能な求人が継続した

- ・ 食品等を扱う倉庫業務で日払い、週払い応相談
- ・ 外国籍、障害をお持ちの方、短時間希望でも紹介、採用へ
- ・ アフタフォローのできる「JOBOTA求人」

◆寄り添い型相談は継続

- ・ 長期休業で、職場以外の居場所喪失。孤立し認知症状悪化
- ・ 「早く働きたい」が、障害者求人減。準備する～「不採用でした」に向き合った。

外国籍の方の就労支援－ 1

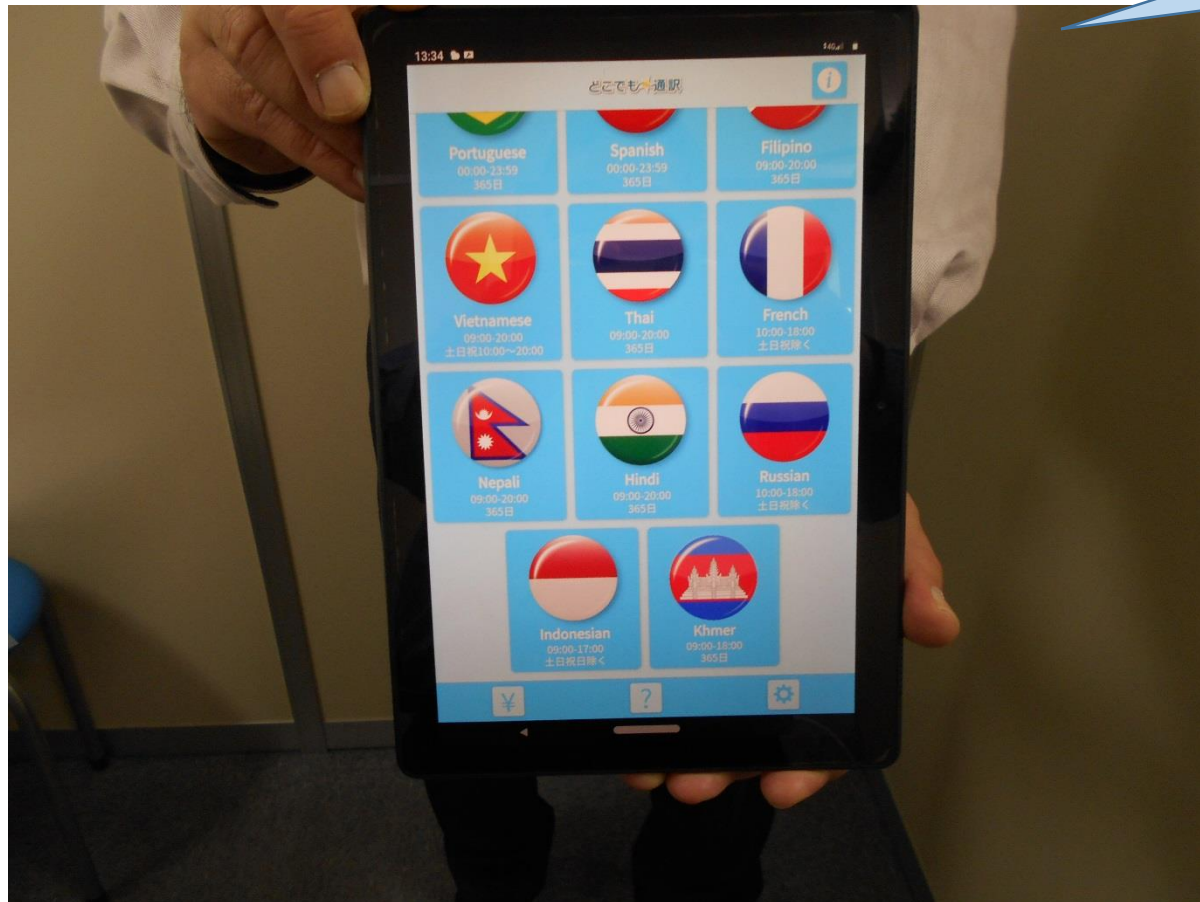
特徴

- ・ 16カ国の方が相談に来られる国際色のある地域
- ・ これまでは永住者、定住者、日本人の配偶者等が主。
- ・ コロナ禍では、ネパール国籍の方の相談が急増
- ・ **羽田空港関連業務、飲食店等の従事者**が多い。
- ・ **在留期間、就労制限のある方**が多くを占めた。
- ・ 全く日本語が話せない方も。
- ・ 紹介可能な求人には、日常会話能力は必要。
- ・ 日本人の配偶者で、経済的DV等の相談も。

外国籍の方の就労支援 - 2

- 多言語通訳タブレットを区から貸与された。
- 6月以降26件の利用
- 書類作成は、[多文化共生推進センター](#)（micsおおた）や、会社の知人が手伝ってくれたり、家主さんが窓口まで同行してくれることも。
- 英語の案内文、ひらがなの案内文など作成。
- 「[差別](#)せずに対応してくれてありがとうございました」。
- 出身国のコミュニティに属しており、仕事が再開するまではたすけあって生活されている。転職相談はあまりない。

多言語通訳タブレット



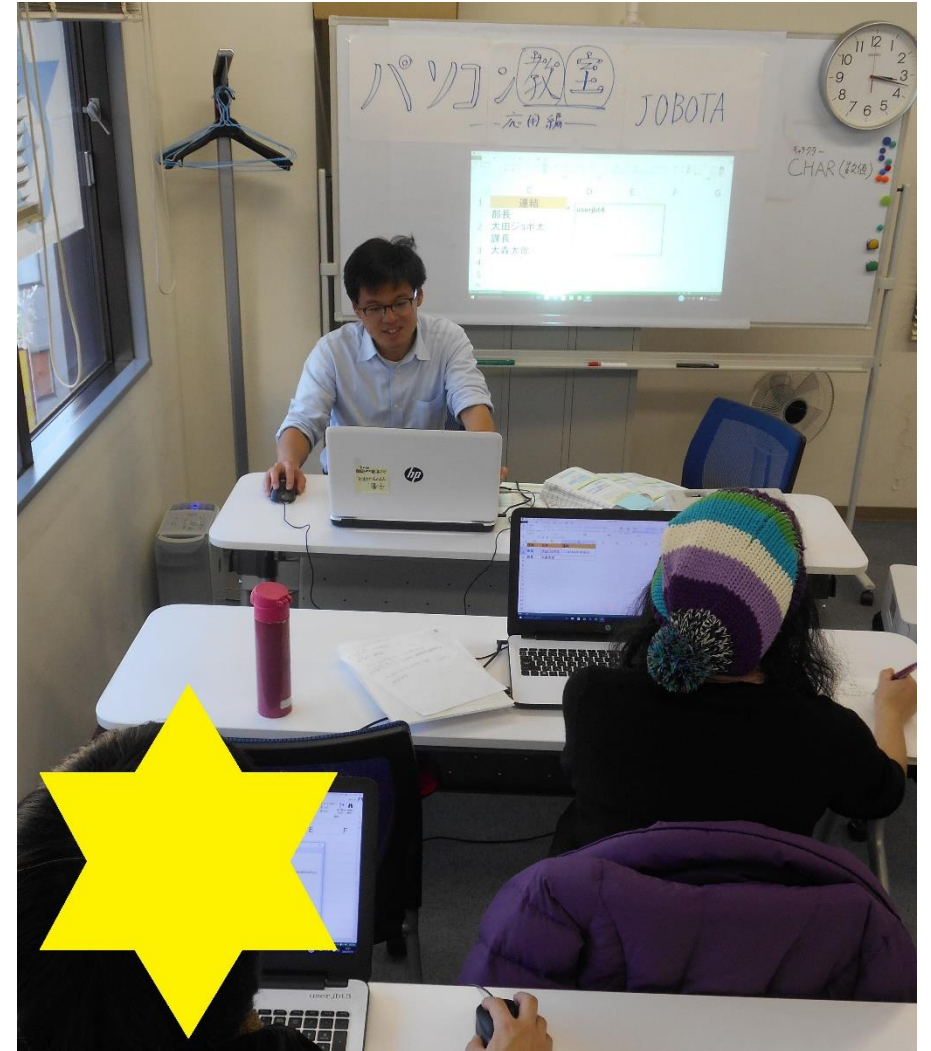
就労準備支援事業の状況

PC教室

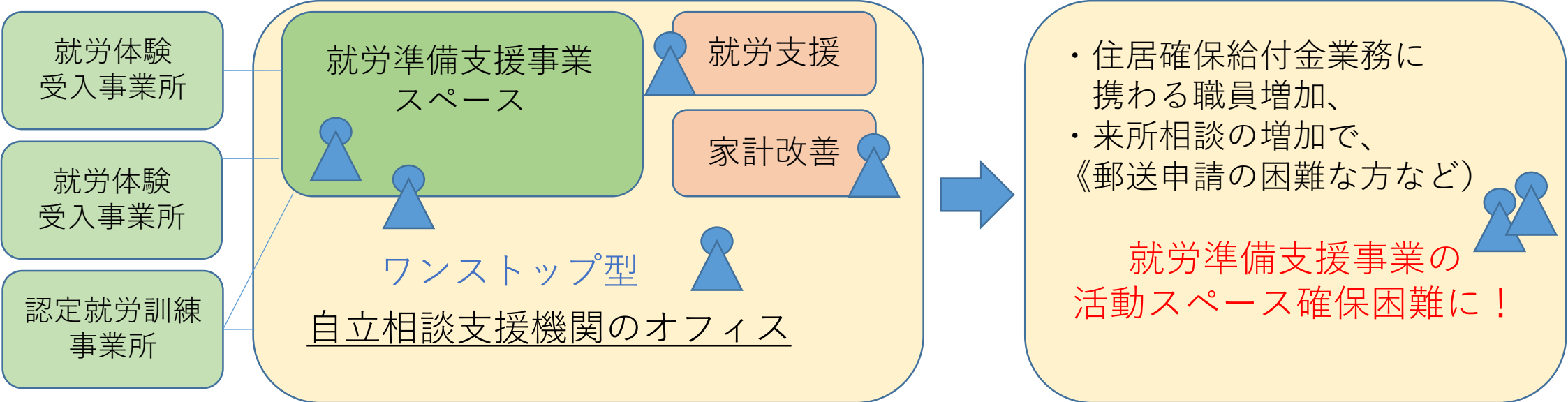


箱作り（内職作業）

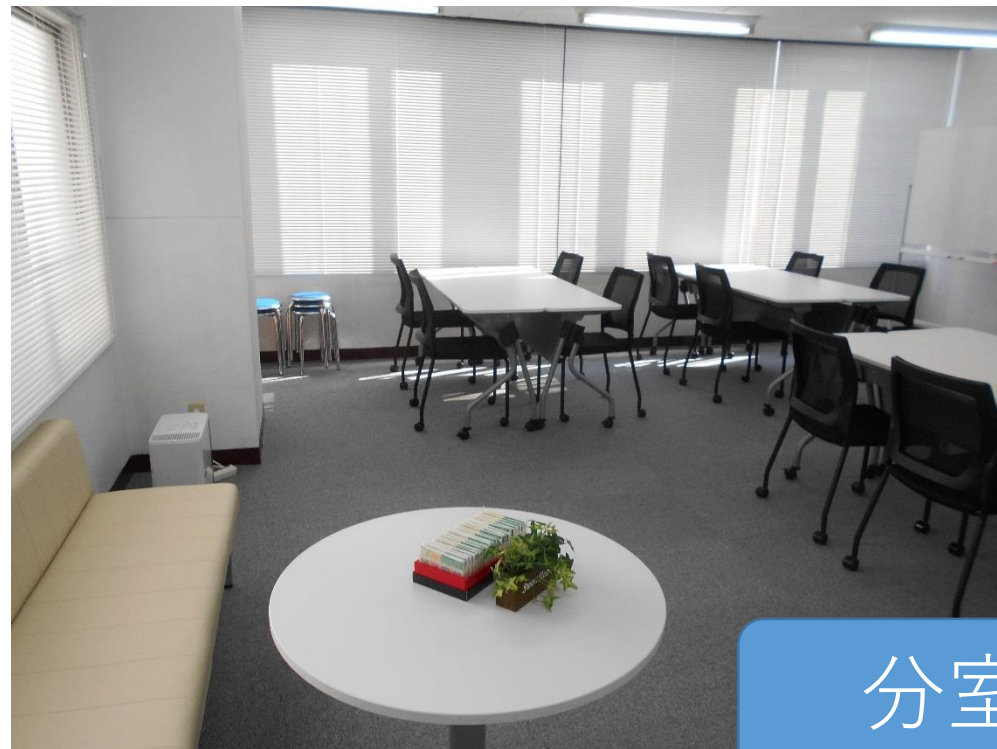
集団活動はコロナで中断・・・



就労準備支援事業 スケジュール							
	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	日曜日
午前	箱作り			箱作り		PC教室	休み
午後					PC教室	PC教室	休み
随時	◆五行日記 ◆就労体験・職場見学 ◆就職ガイダンス（模擬面接、職業興味検査、企業説明会等）						
不定期	◆さわやか自己表現（グループワーク） ◆ほっとひと息茶話会（OBも交えてフリートーク）						



New



分室

徒歩1分の距離に「分室」を借り、就労準備支援事業を本格再開！

- ◆ 集団活動は、3～4人までの少人数開催
- ◆ マスク、検温、消毒、換気。感染防止に配慮
- ◆ 分室のため運営マネジメントが重要。プロジェクトチームを立ち上げ。
- ◆ フリースペース運営など、今までできなかったような活動も始めたい！

就労準備支援事業の課題と工夫 - 1

良かったこと・見えた希望

◆連携の意義

就労体験先が複数あり、本体以外での活動が早期再開できた。
保健所や地域機関と連携しての居場所開催も10月に再開

◆ステップアップ

コロナ前の利用者のうち多くが、就労達成、就労移行支援利用等へ。他の方も順調に活動再開。なぜ？

◆就労準備参加で、社会と「つながる」「ふれあう」ことの意識が、根付いていたのではないか。

就労準備支援事業の課題と工夫－ 2

課題として

- ◆認定就労訓練事業（雇用型）利用中の、強迫症状のある方は、自室から出られなくなった。
 - 長期的な体調の波に向き合う支援。家族の協力も仰ぐ。
- ◆来所の難しい訪問型支援の方は、アプローチ頻度が低下。
 - 安否確認の継続。家族支援の継続。
- ◆リモートプログラム等は未実施。
 - 内職依頼等の実例を地域資源ネットワークで共有したい。

みなさんに伝えたいこと

- ◆ ソーシャル・ディスタンシングのなかで人に向き合う
社会の分断が進むなか、「つながり」の再生に欠かせない事業
- ◆ 自分たちですぐに実現難しい課題は、地域ので
- ◆ 排除から包摂へ (social inclusion)
私たちは困難な状況にある人たちとの関わりの中に
リソースがあることを学ぶべき。

ご清聴ありがとうございました！